

地方競馬益金事業

題 字 理事長 長野 士郎

平成7年2月1日発行

財団法人

中国四国酪農大学校

電話 (0867)66-3651

FAX (0867)66-3652

学 園

だ よ り



蒜山からの便り

校長 原 真一

卒業生、いつもご協力をいただいている大学関係者の皆様にはご無沙汰をいたしておりますが、その後ますます健やかに御活躍のことと推察し心からおよろこびを申し上げます。

季節は初春を迎え吹雪が舞う気候が続いています。

学校ではいま、二十九期生三十一名と三十期生二十五名が勉学に励んでおり、前者は長い学外研修からそれぞれ帰校し、卒論のまとめ、就職の決定など二年間をしめくくるとき、また、後者は校内においての学習と実習を重ね、いよいよ研修生となるための課題を決める大事なときを迎えております。ところで三十期生につきましては、皆様も小耳にされているかも知れませんが測らずも入学後一カ月にして少数の者による殴打行為があり、関係者に変なご迷惑をおかけしたことと思えます。

学生寮内はご存知のとおり寮長を中心に学生の自主管理にはしておりますものの、学校として座視することもできません。学校の名譽のために学生自らの反省を求め、寮役員会議を再三もち、寮生活の秩序を保つことに努めると同時に、学校に指導班をおき、外出、帰寮、消灯、就寝時間の厳守と規律ある寮生活の指導にあたりたいと、学生の意向をきく相談窓口を設けるなど個々の意見も聞き、できるだけ気持ちを通じあうように努

てきました。

その結果お蔭をもちまして、その後当事者も含めて学生の気持ちも落ちつき、いまは極めて安寧な寮に様変わりをしてきました。

今にして思えば一時の悪夢のように思えてなりません。この欄をおかりして皆様に深くお詫びを申し上げますとともに、二度とこのようなことが起こらないように心掛けてゆく所存であります。

そこで、心配されますのが七年度の学生募集ですが、去る十月から関係県をはじめとして関係者のご協力を得まして募集を始めましたところ、一次募集では二十五名と例年並みの応募があり、学校としては本当に安堵し、ホットしているところですよ。

酪農も厳しい情勢のなかで展開されており、国民の健康増進と体位の向上のためには関係者が一致協力して振興・安定を測ることが極めて重要で、我々の使命は日本の酪農を支える後継者・ヘルパーを一人でも多く育てることです。このような大事なときにあたり、五年度のオートタンドム式パーラーの設置に続き、別表のとおり六・七年度で現本館の前に新本館を建て、学習教室も近代的なものにするには勿論、高度なソフトを備えたAVルーム、時代に看合った乳肉加工施設を設け、新しい時代にふさわしい教育内容にすることを目指しております。

(別表)

新しく整備する本館の概要

規模 鉄筋コンクリート造1,130m
総事業費 450,000千円

項目	内容
教室	40人収容の一般教室
AVルーム	大型ビデオプロジェクター、OHPを備えた視聴覚教室
情報処理室	パソコン20台を備えた情報処理演習教室
乳肉加工実習室	バター、チーズ、ハム、ソーセージ等の加工実習室
ハイテク実習室	受精卵移植等の先端技術実習室
図書室	ビデオ鑑賞設備を備えた図書室
会議室	14人収容の会議室
学生ホール	学生の休憩、談話スペース
事務室等	校長室、講師控室、倉庫、機械室



また、八・十年度を目途に第一・第二牧場の牛舎、糞尿処理施設および機械等を整備・更新し、学生が存分な技術が習得できる実習にしてゆく計画であります。さらに実習面では、従来の教材に加えて、これからは酪農と云えども世界を舞台とした産業活動が行われるであろうことから国際感覚を身につける必要に迫られています。そこで十二月から日本在住の外国の方の特別講師を招いて、「その人の日本感、生活感等」について講話を聴くほか、本県が都市縁組みをしている、オーストラリアのサンノーゼ市で本校と同様に酪農後継者を養成している学校との交流研修を行い、大いに国際感覚を身につけることを考え、世界の日本人として活躍できる後継者が生れることを期待しております。

平成七年度はすばらしい記念すべき年になります。一、開校して三十年目に当り、二、新本館が落成し、三、蒜山地域(美作集約地域に指定)にジャージーが導入されて四十年に、四、本校の会員皆さんのご尽力により同窓会がそれぞれ設立され、学校とともに意義深い交流が出来る等々。終わりに学校は皆様のご期待に應えるため、今後とも全職員が一丸となって優秀な後継者の育成に専念し、ますます母校の名譽を高めるため不断の努力をする所存であります。

- 巻頭言 校長 原 真一……………2
- 教務課だより……………3
- 卒業生短信……………4
- 学生だより……………5
- 第一牧場だより……………6
- 第二牧場だより……………7
- 卒業生名簿……………8

もくじ

教 務 課 だ よ り

昨年同様に酪農後継者、技術者、酪農ヘルパー等の養成を目的として、専門科目や一般教育科目の充実をはかりながら、一方では校外からの体験実習生の受入れを実施し、積極的なPR活動を行いました。

主な活動は次のとおりです。

○卒業証書授与式

平成六年三月二十五日、第二十八期生の卒業証書授与式が挙行され希望に燃えた若人二十六名が本校を巣立って行きました。

○第三十期生入学式

平成五年四月五日、新たな時代の酪農を担う若者三十九名(別表)が入学しました。

○県内若者とのふれあい

「燃えろ岡山ふるさとづくり、牛とのふれあいコース」に参加した体験学習生十九名(内男性十一名)を二日間受け入れ、本校の学生と共に搾乳実習等を実施し、好評を得ました。

○酪農ヘルパー研修生の受入れ

(社)酪農ヘルパー全国協会の研修施設指定を受け、過去最高の二十六名の研修生を送りだし、ヘルパー要員の養成に

貢献しています。

○削蹄師講習会

(社)日本装蹄師会主催の牛の装蹄講習会を実施し、一般受講者と共に二十九期生三十一名が受講しました。

○家畜人工授精及び受精卵移植講習会

平成七年一月から家畜人工授精が、又二月から受精卵移植講習会が開催され、本校からも第二十九期生が人工授精講習会を三十名受講中です。受精卵移植講習会も二十八名が受講予定にしています。

○特別講義の実施

学生的一般教養等知識の高揚をはかるため、各分野で活躍されている方々を招いて、様々な分野の講義を実施し、カリキュラムの充実に努めました。

○リクレーション等の開催

バレーボール・ドッチボール・スキー等の競技の開催。蒜山地域のデイリー・ヤングーとの親睦、女子学生の華道教室等を実施し、学生の余暇利用の充実をはかりました。

また、華道は昨年引き続き地域文化祭への出品を行い、称賛を受けています。

○男子寮の増室について

平成六年十二月、増加する入学希望者に対応するため、男子寮に三部屋増室をはかりました。

○同窓会各県支部の設立について

永年の懸案でありました同窓会支部が各構成県に発足しました。

支部設立にあたりましては各県畜産課の方々並びに世話人の皆様方には、ご多忙中にもかかわらずご尽力いただき厚くお礼申し上げます。

なお、三月には各県支部の方々にお集まりいただき、(財)中国四国酪農大学校同窓会総会を開催する予定にしています。

○その他

報道機関の御協力によりテレビ、新聞等を通じて、学生の生活状況を載せていただく等、本校のPR活動を積極的に推進しました。

職員紹介

校 長	原 真一
次 長	有 富 敬 典
(総務部)	
部 長	田 中 秀 樹
主 事	森 本 章 敬
〃	津 田 清 子
(教育部)	
部 長	伊 藤 述 史
総務課長	河 原 宏 一
運転技術員	池 田 富 幸
調理 〃	道 祖 夕 力
臨時(常勤)	西 田 良 子
(経営部)	
部 長	名 越 志 郎
第1牧場長	草 苅 耕 造
技 師	小 阪 和 正
助 手	樋 口 照 夫
第2牧場長	山 田 徹 夫
技 師	出 石 俊 治
技 師	有 安 則 男
助 手	磯 田 博
〃	有 富 勝 仁
臨時(常勤)	三 牧 孝 徳

卒業生 短 信

二人で見て歩いたアメリカ

第二十期生 宮 本 英 貴

平成六年九月二十四日、津山市のソシミエール玉姫殿で結婚式を挙げ、十月七日から九日間、新婚旅行を兼ねてアメリカ酪農研修旅行に出かけました。

最初はシカゴから飛行機で約三十分の所にあるマジソンで開催されていたワールドデーリーエキスポに行きましました。ちょうど行った日は、ホルスタイン経産牛の審査を、音楽の流れる穏やかな中で行っていました。

出品牛はいずれも素晴らしい体格とパワーあふれる乳房で、我が家の牛より一回り大きく、どっしりと見えました。二軒目はカリフォルニア州のシルビエラ牧場で、搾乳牛が八百頭、十六頭ダブルのパー

ラーで三回搾乳をしていました。労働力は主にメキシコ人で、この州で良くある典型的な牧場でした。

三軒目はハリガン牧場で、搾乳牛が千六百頭、二十頭ダブルのパーラーを使用し、一日二回搾乳をし出荷日量は四十七トンでした。

この牧場は、二年半前にロスアンジェルス近郊のチノバレーから移転したという事でした。

施設はフリーバーン、給餌は完全TMRで牛群も揃っていて、経営もうまく行っているようでした。



都市近郊からの移転農家は借金がないので経営は良い家が多いそうです。利益が出て税金をかけられるのを避けるため、来年分の飼料を購入したり、規模拡大の投資をする人が多いようでした。事実、このオーナーも大邸宅を新築中でした。四軒目には生後二十四時間以内の雄子牛二千三百頭をフィードロットに販売するため保育育成する、G & G牧場を見て帰国の途につきました。

早いもので卒業まであと数カ月を残すのみとなりましたがこの二年間はいろいろな出来事がありました。一年の時は記録的な冷夏長雨の中での実習。二年になっての校外研修では一転して連日三十℃を越す雨無しの猛暑。帰校してからの兵庫県南部大地震と、気象的にも一段と厳しさを増す酪農情勢を象徴するような激動の二年間でした。

その中で、より低コストで良品質な牛乳を生産する酪農経営を目指すため、勉強をして来たわけですが、これまで学んだ技術と知識を活用し、足腰の強い酪農経営を

卒業にあたって

第二十九期生 岡山県 廣 金 良 昭

学生だより



行いたいと思います。この二年間御世話になった先生や仲間達本当に有り難うございました。

将来へのステップとして

第三十期生 愛媛県 木下 大介

僕がここへ入学した動機は「大介、酪大へ行け」この親父の一言が大半を占めています。

酪農大学校へ来ての印象はすごい山の中の田舎に放り出されたという感じで、急にその後の生活が不安になりました。

この一日の生活は実習が大半です。当番になると朝は早いし、仕事になれるのも大変でした。

次第に余裕が出てくると実習を通じていろいろな知識を学ぶことが出来るようになりました。

僕の家は酪農家で、小さい頃から手伝いをしていたのである程度基本となることは知っていました。学校での実習はさらに自分自身に体で教えてくれるものが多く勉強になることばかりです。

また、回りの友達からも実習や寮生活を通じて、いろいろな面で勉強させてもらっています。

るようになりますが、これまで学校で学んだことを基礎として、研修先でもたくさん知識を吸収してゆきたいと思っています。

学校の講義は内容も濃く、いろいろなことを学びますが実習のあとに講義が始まるので、眠くてまぶたが閉じそうですが、何とか講義についていっています。

はや、学生生活も十ヶ月が過ぎ、様々なことがあります。

実習や講義に追われる毎日が続いていますが、副寮長としても私生活の面でも自分の未熟さ、甘さを認識しているこの頃です。

「自分の将来は、酪農家を継ぐことだ」という自覚と決意を持って、毎日を暮らしています。もう少しで校外研修に出



酪農大学校に入学して

第三十期生 岐阜県 永井 路子

酪農大学校に入学して既に十ヶ月が過ぎようとしています。

非農家の長女として生まれ私が、酪農というものを知ったのは、三重県にある愛農学園農業高等学校に入学してからのことです。

「野菜・果樹・作物・酪農・養鶏・養豚」と数多い部門の中で、草を食べて乳や肉を生産する牛という大きな生き物にとっても興味を持ち、酪農部

に入りました。高校は四年制で三年間の酪農部での授業及び実習と、一年間の農家実習は決して楽ではありませんでしたが、牛に触れれば触れるほど、もっと自分のやり方で牛を飼ってみたいと思うようになりました。

人に指図された決まったやり方でなく、自分のやり方で仕事が出来、それが答えとなつて返ってくることは、農業の大きな魅力と思っています。

中国四国酪農大学校で出来るだけ多くの技術や知識を身につけ、自分の将来の経営に生かして行きたいと思っています。

二年からは半年間、農家研修に出かけますが、それぞれの農家でどんなこだわりを持って牛を飼っているのか、実習を通じて学校では学べない酪農家の現状を学んできたいと思っています。

今後の学校での生活は充実していたと思えるよう、頑張りたいと思います。



卒業生の皆様には、お元気で御活躍のこととお喜び申し上げます。

平成六年度の第一牧場は、草刈場長（二年目）と小阪主任（一年目、家畜病性鑑定所）から、卒業生の皆様にはお馴染みの樋口助手の三人で哺育牛から搾乳牛、肥育牛の使養管理、また草地や飼料畑の管理実習を、学生と一体となり毎日汗を流しております。さて、今年の猛暑と干ばつは、皆様の所ではいかがだったでしょうか。

ここ蒜山高原でも大変な暑さと日照りが続きました。

搾乳牛舎には大型扇風機を二台配置し、バドックには寒冷紗も張りましたが、搾乳牛は少し夏バテをしたようです。

牧草も赤く日焼けしたところがあり、ロールベールサイレージの収量は少し減少しましたが、乾草は大変良いものがたくさん収穫できました。

トウモロコシは、初期の生育が少し遅れたようでしたが、中期以降は素晴らしい発育を示し、例年以上の収量をあげることが出来、バンカーサイロも満杯となっております。

受精卵移植実習用の和牛二頭からもそれぞれ採卵をし移

植に使っております。またアメリカから導入したジャージー牛も、一産後二回目の採卵を実施し、良質卵をたくさん保管しております。

乳肉複合経営実証モデル牛舎では雌の育成牛、肥育牛、乾乳牛等を繋ぎ有効利用しております。

また、牛舎周辺にはかわいらしい草花を植え見学のの方々から好評を得ています。

現在の第一牧場は、一面雪に覆われ、本館から見える草地はゆるやかなスロープを見せております。

これがとけて緑の牧草が生き生きと伸び始める春は、いよいよ三十周年の年となります。

卒業生の皆様の来校を職員一同、思い出深い搾乳牛舎とともに心からお待ちしております。



飼 養 頭 数

平成7年12月1日現在

区 分	頭 数
経 産 牛	35
未 経 産 牛	5
育 成 子 牛	17
乳 用 牛 計	57
肥 育 牛	114
繁 殖 和 牛	2
肉 用 牛 計	116
合 計	173



サイレージ調整風景



春が一步一步近づいてい
ますが卒業生の皆様にはいか
がお過ごしでしょうか。本年度
第二牧場では、藤原技師が岡
山県総合畜産センターへ転勤
となり、かわりに出石技師が
配属となりました。

さて、今年は蒜山地方も全
国の例にもれず猛暑、干ばつ
の影響をまともに受け、梅雨
の時期から好天(?)に恵ま
れて雨不足が続く、牧草地の
作業は順調であったものの、
乾草やロールベールの収量は
思うほどあがりませんでした。
来期までの粗飼料の確保は
ぎりぎりのようです。

トウモロコシについては夏
の雨不足はあったものの、そ
の後の天候の安定により生育
は良好で、タワーサイロとバ
ンカーサイロ一杯につめても
まだ余裕がありひと安心
でした。

一方ジャージー牛の方
は、比較的暑さに強い品
種と言われるものの、連
日三十五℃をこえる気候
に熱射病になる牛も出て、
夏場の乳量低下がいつも
より激しく、また八月頃
の種付けもほとんど出来
ない状態でした。

ミルクングパーラー内
やパーラー待機場にも扇
風機を設置して、少しで
も牛のストレスを減らそ
うとあれこれ対応してい



るうちに夏も終わりを告げ、
一ヶ月近くかかりましたが牛
も回復しています。

今振り返ってみると蒜山高
原の夏がこうであったからに
は、他の地方の酪農家の方々
の御苦労は、水不足を始め大
変なものであったろうと思っ
ます(新聞等でも報じられて
いましたが)。昨年のミルク
ングパーラー改築に始まった
場内の整備も継続して進んで
おり、今年来場されたOBの方
々を始め非常に好評のよう
で、職員一同もさらに牧場運
営・学生実習の充実をはかる
ため努力しております。また

平成六年十一月に蒜山地区
の文化祭が開催され、華道部
の活動成果を発表しました。

月に二度食堂の
道祖さんにお稽古
をしてもらい、ク
リスマスには山か
ら採ってきた蔓や
松ぼっくりでリ
スをつくり、元日
には豪華なお正月
花を活けました。

また、お花だけ
ではなく、広告の
紙で籠をつくり、
その中にお花を活
けたりしました。

ちなみに、お稽
古の花は校長室、



牧場周辺では、蒜山高原にサ
イクリング道が完成しました。
今年、酪大創立三十周年記
念と蒜山へのジャージー導入
四十周年記念の年を迎えた蒜
山へ、皆様どうぞいらして下
さい。

華道部 便り

華道部の活動について

第三十期生 広島県 樽本晴美

女子寮、研修センター、玄関、
食堂等に飾られ好評を得まし
た。